

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回 (令和3年6月)	今回 (令和3年8月)	
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→

1. 鉱工業生産等の動向

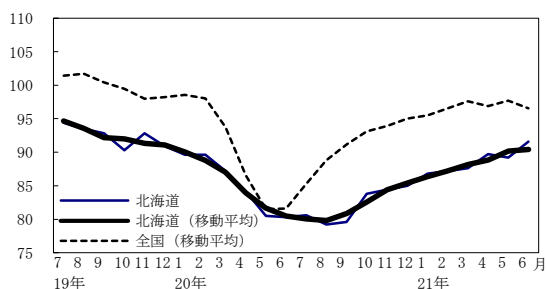
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

4-6月期には、生乳生産は総量では1,081,934t と前年比2.5%増となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、ほっけ等が増加したため、前年比13.0%増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直している。

4-6月期の鉱工業生産は、化学・石油石炭製品が増加したこと、電気機械が増加したこと等により、前期比3.4%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
食料品	25.9	2.9	▲1.6	▲3.4	▲1.5	6.6
パルプ・紙	13.1	6.3	1.2	6.6	0.4	▲9.7
電気機械	9.1	10.6	8.4	8.1	0.5	▲2.5
鉄鋼	7.9	44.9	6.9	1.8	13.3	▲5.2
化学・石油石炭製品	7.6	1.4	25.6	6.1	6.3	10.2
鉱工業	100.0	3.3	3.4	2.4	▲0.6	2.7

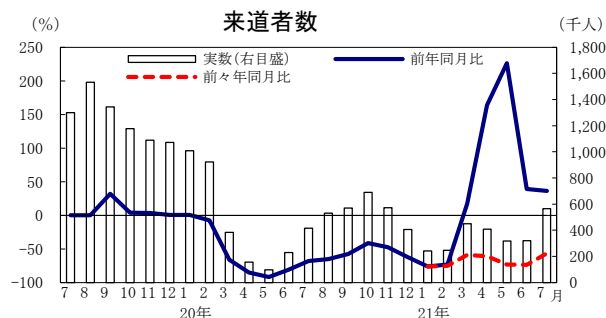
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4-6月期、6月は速報値。

¹主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は弱い動きとなっている。

4-6月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比116.9%増（前々年同期比69.7%減）となった。月別では、4月に前年同月比163.9%増（前々年同月比60.7%減）、5月は同226.3%増（同73.5%減）、6月は同39.1%増（同73.6%減）となった。7月は同36.4%増（同56.5%減）となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

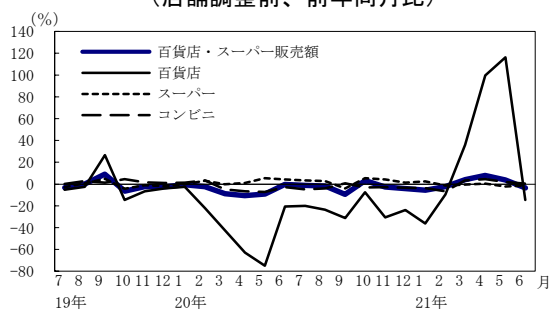
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.7%増となった。月別にみると、4月は前月比1.5%増、5月は同1.9%減、6月は同1.9%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

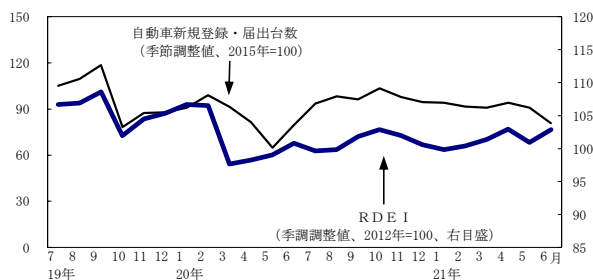
百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比2.5%増（前々年同期比4.3%減）となった。月別にみると、4月は前年同月比7.8%増、5月は同3.7%増、6月は同3.4%減となった。百貨店は、4-6月期は前年同期比37.1%増となった。スーパーは、4-6月期は同1.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.7	1.5	▲1.9	1.9
百貨店・スーパー(*2)	2.5	7.8	3.7	▲3.4
百貨店(*2)	37.1	99.7	116.3	▲14.5
スーパー(*2)	▲1.1	0.4	▲2.3	▲1.4
コンビニ(*2)	2.3	4.5	1.9	0.5
乗用車(*3)	15.4	14.3	41.0	0.3
(季節調整値) (*3)	▲3.9	3.5	▲3.3	▲11.1

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

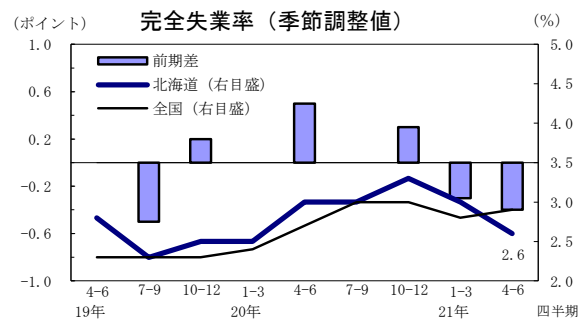
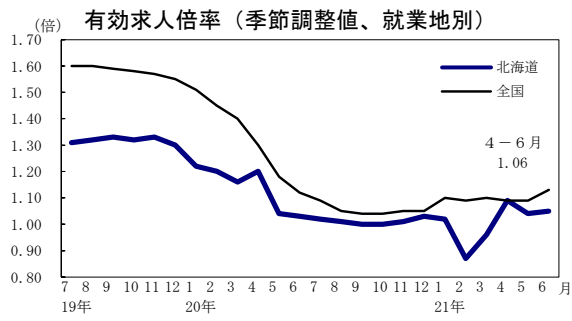
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は増加している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和3年7月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	○
□			・販売量が上向きつつあることから、景気はやや良くなっている（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。
▲			・様々な面で客の消費行動が縮小していることがうかがえる。当店の場合、店販品の買い控え、来店頻度の低下がみられており、そのことが気掛かりである（美容室）。
企業 動向 関連		□	・厳しい暑さながらも好天が続いており、新型コロナウイルスの直接的な影響も出ていないことから、順調に工事が進んでいる。出来高が積み上がっている状況に変わりはない（建設業）。
		▲	・新型コロナウイルスの感染再拡大や東京オリンピックの異例な開催状況を受けて、これまで不透明だった市況が停滞気味になってきている（家具製造業）。
雇用 関連		○	・通信・IT企業の状況を見ると、新型コロナウイルスの終息を見据えた新たな社会基盤や事業の枠組みなどに関する案件が増えてきており、総じて景況感が上向いている（通信業）。
		□	・今年に入ってから求人数が増加傾向にあり、特に営業、IT系の求人が目立つ。一方、飲食店、ホテル、アパレルなどからの求人はほとんどみられない状況にあり、コロナ禍の影響を受けていることが分かる（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント	▲	○：東京オリンピックの開催に伴い客の動きが明らかに消費に傾いている。ただ、こうした動きが一時的なものでどうか分からない（百貨店）。 ▲：たばこを紙巻きのものから葉巻きに変える客がみられるなど、客がより単価の低い商材を求める傾向がみられる（商店街）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・当地の地域特性として、新型コロナウイルスの感染拡大傾向にある地域からの客が多くを占めていることが挙げられる。そのため、現在の感染拡大に伴って、ここに来て伸びつつあった来客数が減少に転じることが懸念される（高級レストラン）。
		▲	・今後も新型コロナウイルスの感染拡大が続くとみられ、それに伴い緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの対策が行われることになれば、来客数が減少することになる（タクシー運転手）。
	企業 動向 関連	□	・ワクチン接種が進んでいるものの、まだ数か月は新型コロナウイルスの感染者の増加と減少を繰り返す不安定な状態が続くとみられることから、今後も景気は現状と大きく変わらないまま推移する（輸送業）。
		○	・新型コロナウイルスの感染拡大傾向が続いているなど、引き続き新型コロナウイルスの影響が懸念されるものの、ワクチン接種の進展に加えて、感染対策を行いながらの経済活動も定着化しつつあることから、今後の景気はやや良くなる。公共工事などの経済対策が順調に発注されていることもプラスである（その他サービス業 [建設機械レンタル]）。
	雇用 関連	□	・管内における新型コロナウイルスの感染者は多くはないが、雇用調整助成金の申請が増えてきているなど、影響が続いていることから、今後も景気は変わらない（職業安定所）。
その他の特徴 コメント	○	○：ワクチン接種が進むことで、感染対策をした上での経済活動や余暇活動が今までよりも活発になると期待している（観光名所）。 ×：今後、景気が良くなるとは考えられない。せめて現状並みの状態に戻るくらいにはなつてほしい（スナック）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

